

## 第2部

### 実態把握から始める支援の充実に向けて

～在籍学級での支援から特別支援教室の退室までの流れと考え方～

## < 第2部 目次 >

### 第2部 実態把握から始める支援の充実に向けて

～在籍学級での支援から特別支援教室の退室までの流れと考え方～

第1章 在籍学級を中心とした支援の充実	66
1 「学習と行動のチェックリスト」を活用した実態把握	67
(1) 「学習と行動のチェックリスト」の概要	
(2) 「学習と行動のチェックリスト」の作成と活用	
2 在籍学級における指導目標の設定に関する考え方	73
3 在籍学級での評価	74

第2章 特別支援教室の利用と在籍学級との連携	75
1 特別支援教室の利用による指導の検討	75
2 「読み書きチェックリスト」、 「社会性・行動のチェックリスト」の活用	75
3 指導目標・内容の設定について	76
4 在籍学級と特別支援教室による指導の連携	82

第3章 特別支援教室の退室に向けた考え方	88
1 児童・生徒の実態把握（指導開始時と指導実施後）	91
2 指導目標に対する達成状況の把握	93
3 退室後の在籍学級での支援	94
4 指導目標等の妥当性の検討（指導の延長に向けて）	95

※目次の枠囲み部分は、65ページの「特別支援教室での指導の充実に向けて」の枠囲み部分と対応しています。

## 特別支援教室での指導の充実に向けて

- 在籍学級担任等による気になる児童・生徒への気付き
- 本人や保護者からの申出 等

### チェックリスト等を活用した実態把握

- 在籍学級担任等による行動観察及び「学習と行動のチェックリスト」の活用
- 各種チェックリスト<sup>\*1</sup>や発達検査の活用 等

### 校内委員会による支援レベルの検討

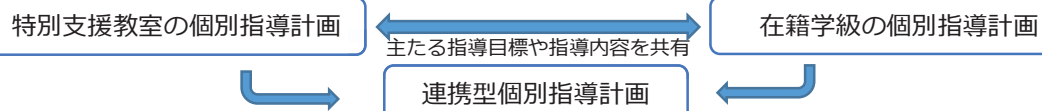
支援レベル1	在籍学級担任の指導法の工夫等により、対応が可能と思われる程度
支援レベル2	校内・外の人的資源等を活用して対応が可能と思われる程度
支援レベル3	特別支援教室の利用が適当と思われる程度

児童・生徒や保護者との合意形成

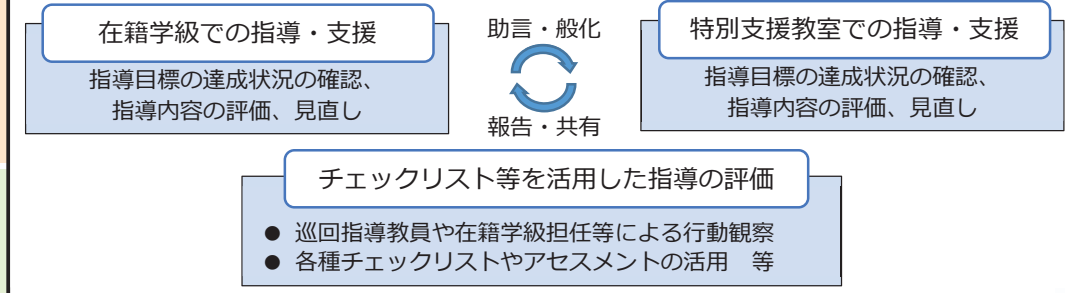
特別支援教室の入室に係る判定委員会による入室決定

学校生活支援シート（個別的教育支援計画）<sup>\*2</sup>の作成

### 個別指導計画<sup>\*2</sup>の作成



### 指導の実施と評価



指導目標や指導内容・方法等の見直し

### 「退室に向けた確認項目（例）」の活用等による評価

退室及び指導延長の検討のための校内委員会

指導目標が達成

指導目標が未達成

児童・生徒や保護者との合意形成

区市町村教育委員会への退室に係る報告等

指導延長に係る判定委員会

退室

指導延長

<sup>\*1</sup> 各種チェックリスト：東京都教育委員会が開発した「文字の読み書きチェックリスト」や「社会性・行動のチェックリスト」の他、各学校で使用されている行動観察のためのチェックリスト等を示す。

<sup>\*2</sup> 学校生活支援シート（個別的教育支援計画）及び個別指導計画の作成においては、保護者の参画が重要である。

平成 25 年 10 月 4 日付 25 文科初第 756 号「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」<sup>1</sup>では、通級による指導を受けることが適当であると認める児童・生徒の指導に当たっての留意事項として、「通級による指導の特質に鑑み、個々の児童生徒について、通常の学級での適応性、通級による指導に要する適正な時間等を十分考慮すること。」とあり、通常の学級、すなわち在籍学級における児童・生徒の状況を把握した上で、通級による指導の時間等を検討することが述べられています。特別な教育的支援が必要な児童・生徒に対して、在籍学級と特別支援教室とが常に連携・協力しながら、指導や支援の充実を図っていくことが重要です。

## 第 1 章

## 在籍学級を中心とした支援の充実

## 支援レベル 1～2

「特別な教育的支援」が必要かどうかは、本人や保護者からの申出の他、中学校の場合は小学校からの引継ぎや、在籍学級担任や教科担任（以下「在籍学級担任等」という。）の「少し気になる」という「気付き」等が出発点となります。

### 学級担任等による「気付き」の例

#### 小学校では…

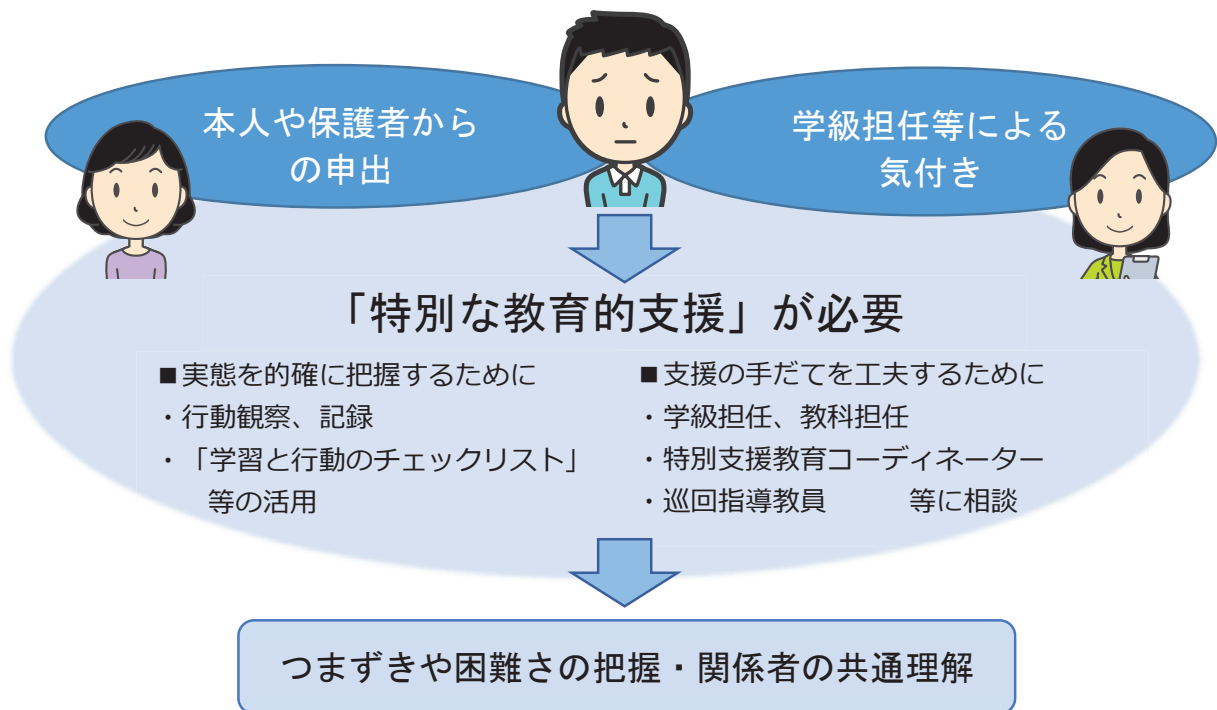
- ・授業中の頻繁な離席、学習状況に関係のない話を始めるなど、場面にそぐわないような目立った行動をする。
- ・文字の読み書きに課題が生じ、練習を積み重ねても成果が得られない。等

#### 中学校では…

- ・表面上の友人関係や授業における態度等に問題が生じていなくても、友人との円滑なコミュニケーションがとれず孤立している。
- ・中学校での生活や学習に対応できず、学習への意欲が著しく低下している。

在籍学級担任等が、「特別な教育的支援」が必要な児童・生徒に気付いたら、一人で抱え込まずに、まず学年会等で話し合い、校内における特別支援教育コーディネーターと連携し、支援の手立てを工夫してみる必要があります。学年単位での対応が難しい場合は、特別支援教育コーディネーターや巡回指導教員、巡回相談心理士に相談し、校内委員会での検討事例として取り上げるよう調整します。そのためには、日頃から、「いつ」、「どこで」、「どのような時に」、「どのようなつまずきや困難さが生じるか」という視点で、学習上や生活上のつまずきや困難さの様子を把握しておくことが大切です。

在籍学級担任等による気づきを端緒に、校内での組織的な支援体制につなげていくことは、当該児童・生徒が進級・進学等をした場合でも支援体制を継続し、支援の充実を図ることにつながります。



## 1 「学習と行動のチェックリスト」を活用した実態把握

### (1) 「学習と行動のチェックリスト」の概要

97～102ページの様式1のチェックリストは、東京都教育委員会が平成21年度に例示した「学習と行動のチェックリスト」<sup>2</sup>を基に、文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」<sup>3</sup>の項目を参考に、学習場面で見られる項目を増やし、学級担任等が授業を行う中で児童・生徒のつまずきや困難さに気付くためのチェックリストとして以下の観点で再整理しました。

P97～102 様式1

- ◆ 「読む」や「行動」など13区分39項目で整理
- ◆ 支援初期の段階で活用するため質問数を精選
- ◆ 各項目内の配列は、易しいものからステップアップ
- ◆ 学級担任、巡回指導教員等、複数の視点でチェックリストを活用
- ◆ 得意なことや興味・関心について記載

## (2)「学習と行動のチェックリスト」の作成と活用

本チェックリストの作成者は、児童・生徒の在籍学級担任の他に、特別支援教育コーディネーター、教科担任や特別支援教室の巡回指導教員等が考えられます。その場合、一人の教員のみで作成するのではなく、児童・生徒に関わりのある複数の教員が作成に関わることにより、児童・生徒の全体像を多面的に把握することが重要です。

作成に関わる在籍学級担任等は、学校生活において見られる児童・生徒の様子から、本チェックリストの「1 読む」から「13 社会性（コミュニケーション）」までの13区分39項目について、「A できる」、「B ほぼできる」、「C あまりできない」、「D できない」、「未確認」の中で当てはまる項目にチェックをします（達成度の目安は、A：80%以上、B：80～50%、C：50～30%、D：30%以下）。チェック結果は、区分ごとにレーダーチャートに記載されます。この結果から、児童・生徒がどの項目につまずきや困難さがあるのか、把握することができます。

「未確認」という項目は、例えば、中学校の場合、教科ごとに担当教員が異なるため、チェックを行う教員によっては、全ての項目を確認することが難しい場合があることを想定した項目です。そのような場合、特別支援教育コーディネーターが中心となり、在籍学級担任等がチェックした情報を取りまとめ、チェックリスト全体を完成させるなど、関係教員等が連携を図り、生徒の全体像を把握することが重要です。

作成に当たっては、児童・生徒のうまく取り組めていない面や、在籍学級の中でのつまずきや困難な様子ばかりに着目するのではなく、得意な面や興味・関心のある事柄にも着目し、児童・生徒の全体像を捉えることが重要です。そのため、本チェックリストでは新たに「得意な点や興味・関心のある事柄」が記載できる欄を設けました。本欄を活用し、学校生活の様子だけでなく、家庭生活や地域での様子等、関わりのある人たちから情報を集め、できるだけ多面的に実態を捉えることが必要です。その際、学校が把握した全体像として、チェックリストを保護者にも確認してもらい、学校や家庭等での生活場面におけるつまずきや困難さの違い及び関わる人たちの把握している児童・生徒の全体像を共通理解しておくことが重要です。

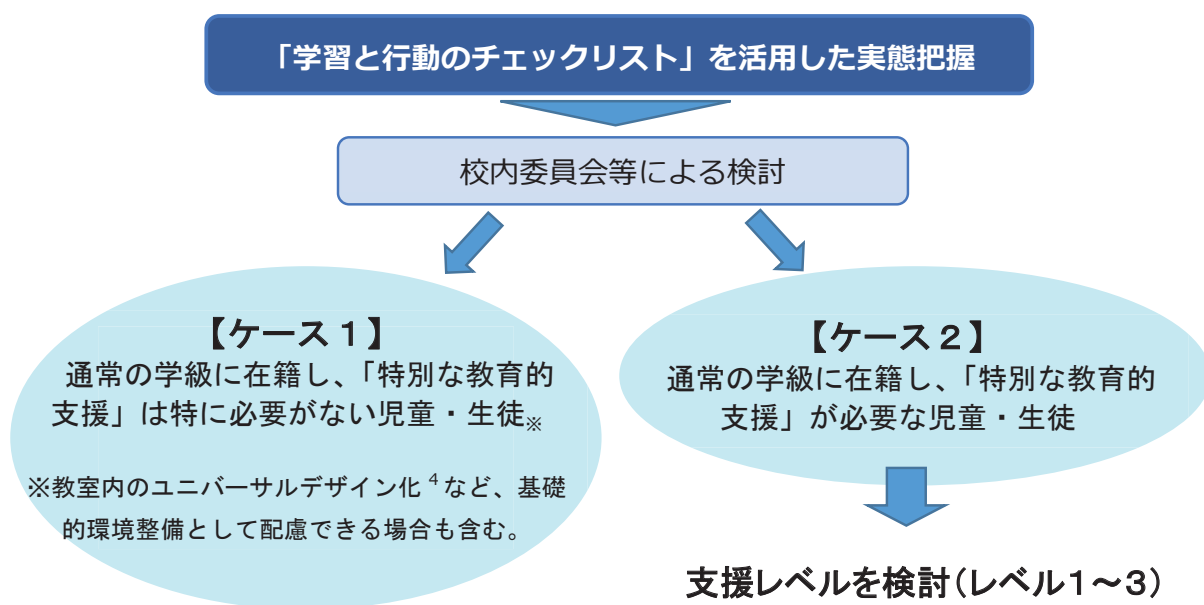
実態把握の段階から、児童・生徒の全体像について保護者と学校とで共通理解しておくことが、その後の支援の検討や目標の設定及び評価の充実につながります。

## ▲留意点▲

本チェックリストは、児童・生徒のつまずきや困難さを把握する上での代表的な観点をまとめたリストであるため、質問項目に該当しないからといって課題が存在していないことにはなりません。そのため、顕在化していない課題があることに留意しておく必要があります。児童・生徒の実態に応じて、東京都教育委員会で開発し、各区市町村教育委員会でも活用している「文字の読み書きチェックリスト」(P103 参照)、「社会性・行動のチェックリスト」(P104 参照)や『『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント』(P74 参照)等も併せて活用しましょう。

なお、チェックリストを実施した全ての児童・生徒が、必ずしも特別支援教室の指導対象とはならないことを、関係する教職員間や保護者との間で共通理解を図っておくことも重要です。

本チェックリストを活用して把握した児童・生徒の実態は、校内委員会等において情報共有を図り、その後の方針等を検討します。その際、次のような場合が想定されます。



## ▲留意点▲

同一の児童・生徒であっても、複数名で実態把握を行うと、各結果に相違や偏りが見られることが考えられます(例えば、学習集団、教科・科目の得意不得意、教員との関わり等)。異なる場面における状態について、本チェックリストの備考欄等を活用し、関係する教員間で確認することが重要です。

小学校1, 2学年用の例

様式 1 - 1

学年・児童名	2年・A	記入者	在籍学級担任	〇〇 〇〇
--------	------	-----	--------	-------

学習と行動のチェックリスト（小学校1、2学年用）

※評価：できる→A ほぼできる→B あまりできない→C できない→D 未確認→未

【達成度の目安】 A：80%以上 B：80～50% C：50～30% D：30%以下

備考欄には、児童の特徴的な様子などを記入する。

区分	項目	評価					備考
		A	B	C	D	未	
1 聞く	① 個別に出された口頭の指示を聞いて行動できる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	自分のことに夢中になり、一斉指示を聞き逃してしまう。
	② 一斉の指示を聞いて行動できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 聞きまちがいがなく、話の内容を覚えることができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2 話す	① 単語の羅列ではなく、文として話することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	トラブルが起きると状況の説明がうまくできない。
	② 自分の意思を教師に伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 教師に内容をわかりやすく伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3 読む	① 既習の文字を読むことができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	文末を読み違えることがある。
	② 学年で使用する教科書の一文を流ちょうに読むことができる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 説明文の内容を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4 書く	① 既習の文字を書くことができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	字形は乱れるが書ける。最後まで集中できず、板書が途中になってしまうことが多い。
	② 字の形や、大きさを整えて書くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 決められた時間内で板書を写すことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
5 計算する	① 学年相応に簡単な計算ができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	「学年相応に…できる。」では、既習内容がどの程度できているかを確認する。
	② 学年相応に簡単な暗算ができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 5、10とまとめて数えることができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6 推論	① 学年相応に図形を描くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	② 学年相応に量を比較することや、量を表す単位を理解することができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 手本や例示を基に考え、必要に応じて修正することができる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
粗姿勢・大運動	① 全身を使った運動ができる。（スキップ、ボール運動等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	道具の扱いが苦手だが、運動には好んで取り組む。
	② つま先立ちや片足立ちができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ スタートの合図で、全力疾走（30m程度）ができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8 微細運動	① 配られたプリント等を角を合わせて半分に折ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	細かいところまで丁寧に意識して取り組むことが難しい。
	② 線に沿って紙をはさみで切ることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 箸を使うことができる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9 注意	① 身の回りの整理整頓や物の管理ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	② 人の話に注意を向けて聞くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 最後まで集中してやり遂げることができる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	



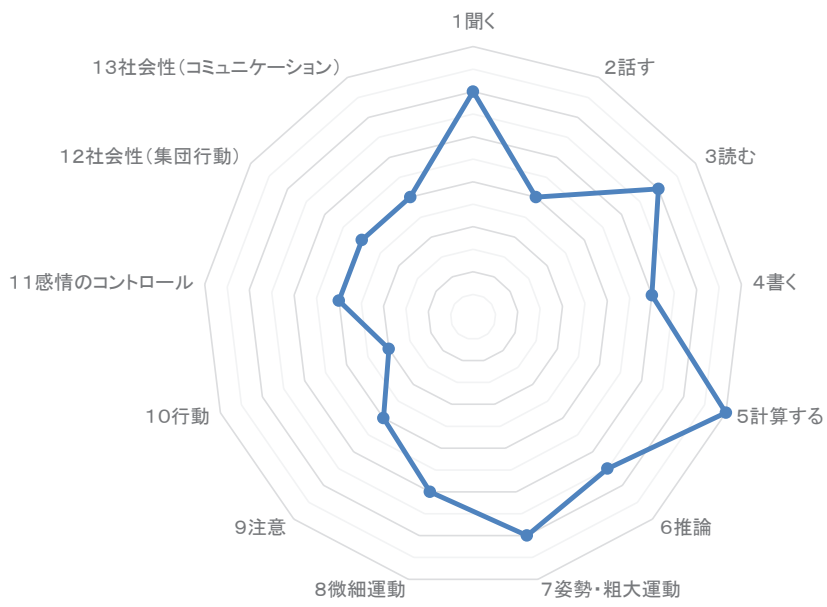
10. 行動	① 着席し、むやみに手足を動かさず、授業を受けることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	着席しているが、常に手や足が動いている。思い付くとすぐに声に出してしまう。
	② そわそわせず落ち着いて行動することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 話の途中で割り込まず、最後まで人の話を聞くことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11. 感情のコントロール	① 予定に変更が生じても順応した行動ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	② 何かに固執しないで行動することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ パニックを起こさず感情をコントロールすることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12. 社会性 (集団行動)	① きまりを守った行動ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	きまりを守ることは分かっている。授業中や全校朝会で、衝動的に動いてしまい、集団から外れてしまう。
	② みんなと一緒にの行動(集団行動)がとれる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 場所をわきまえた行動がとれる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
13. 社会性 (コミュニケーション)	① 友達と一緒にトラブルなく遊ぶことができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	友達のことは好きだが、休み時間は、衝動的な言動により、トラブルになることが多い。
	② 人に対して親しみをもった発言や行動をすることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	③ 相手に合わせた言葉づかいができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

具体的な場面や様子を記載すると、支援につながりやすい。

児童の得意な点や興味・関心のある事柄

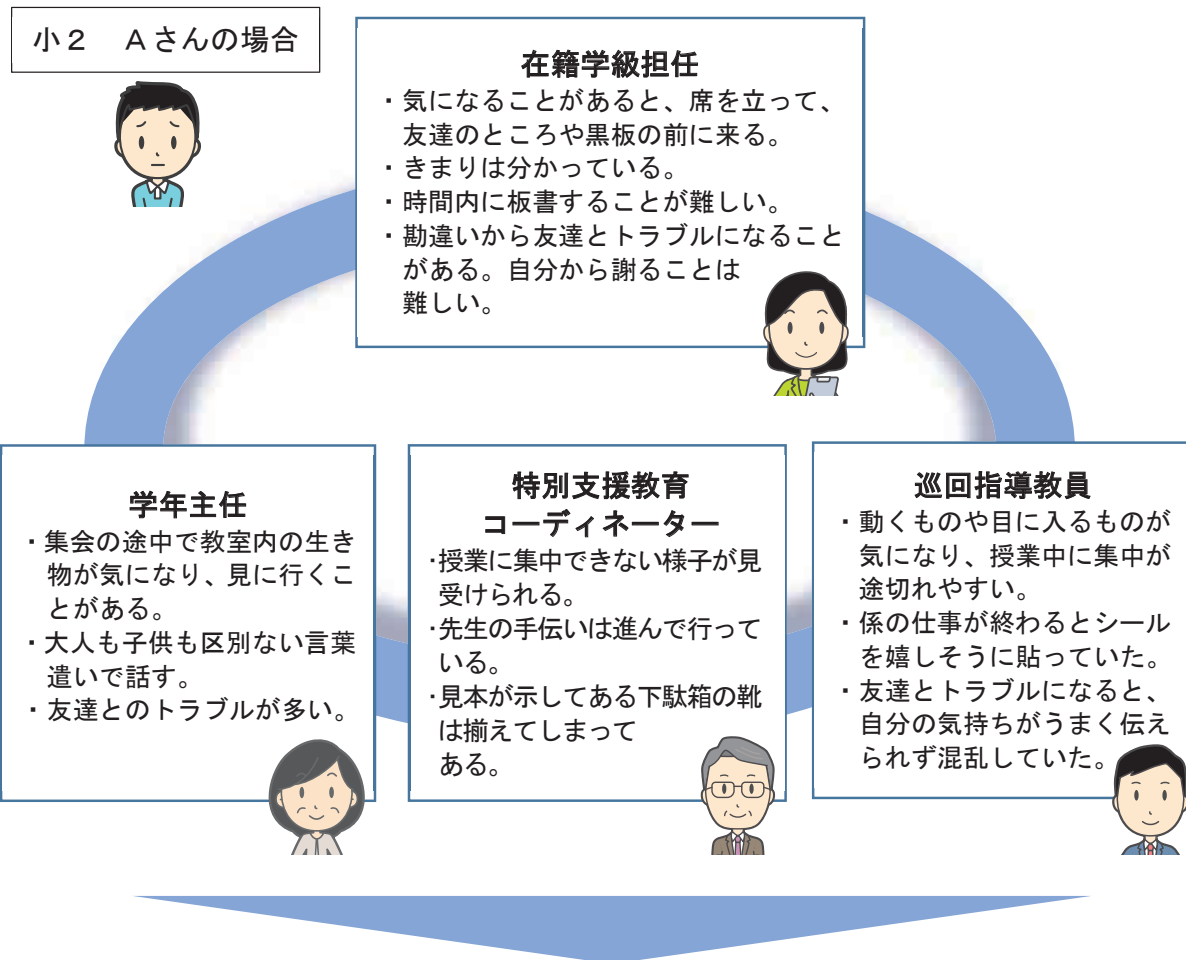
- ・〇〇に関心があり、周りの児童から「〇〇博士」と認識されている。
- ・「先生の手伝い」を快く引き受ける。
- ・絵本や図鑑、間違い探しの本をよく見ている。
- ・算数の計算問題は得意で、目標に「九九を覚えたい」と書いた。

当該児童の得意な点や、興味・関心のある事柄など、特筆すべきことや、当該児童の支援につながると思われる事項等を記載する。



【学習と行動のチェックリスト】 小学校1・2学年用/小学校3・4・5・6学年用/中学生用  
：巻末の【様式1】97ページから102ページまでを参照

## <複数の教職員の視点で実態を共有する際のイメージ>

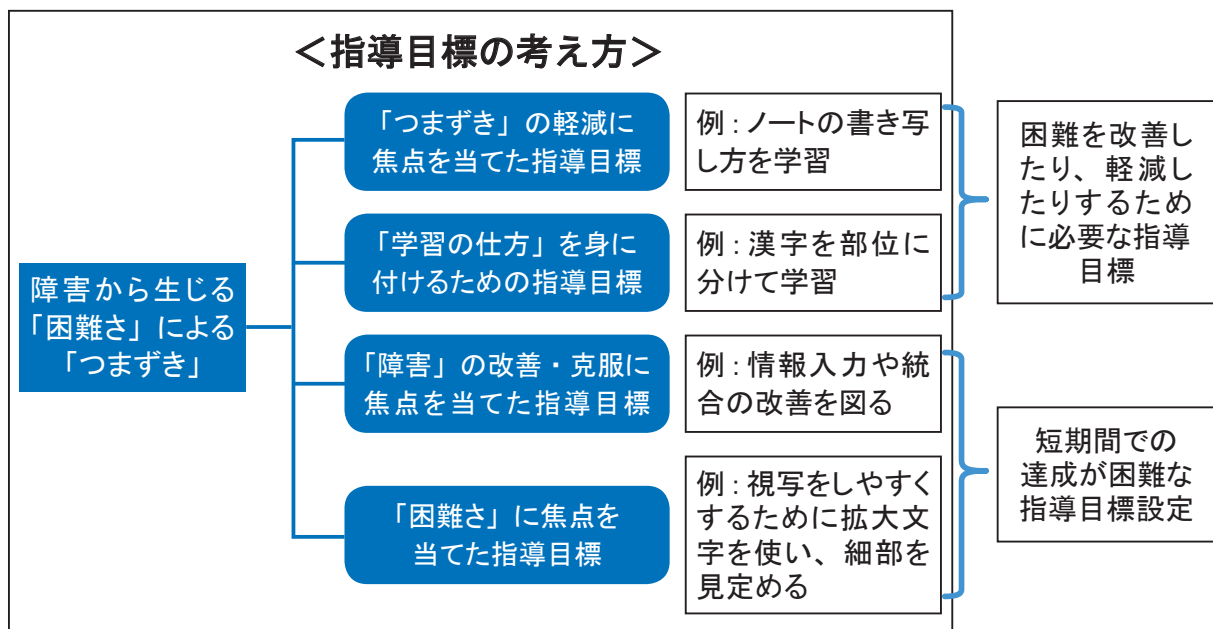


➡ 複数の視点から児童・生徒の情報を交換・共有することで、在籍学級では見られない困難さや、課題を把握することができます。

## 2 在籍学級における指導目標の設定に関する考え方

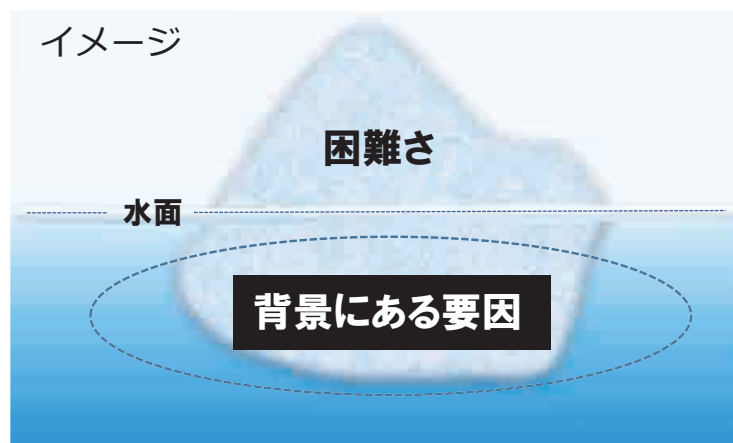
「学習と行動のチェックリスト」等で実態把握を行ったことにより、学習面や生活面における課題が複数明らかになることが考えられます。それらの課題について、指導目標を設定する場合、明らかになった課題のみに焦点を当てるのではなく、課題の背景となっている要因を検討する必要があります。

指導目標の設定に当たっては、認知面や行動面に留意しながら、障害から生じる困難さによる「つまずき」を把握し、「つまずき」の軽減に焦点を当てた目標の設定や、「学習の仕方」を身に付けるための指導目標を設定するなど、優先する指導内容を絞り込んでいく必要があります。その際、長期的な観点（概ね1年間程度）で、児童・生徒が達成可能な指導目標を設定するとともに、短期的な観点（学期毎の指導期間を想定）で、指導内容を段階的に取り上げ、具体的な個別指導計画を作成します。



右図のように、児童・生徒の課題を海面に浮かぶ氷山に例えると、水面より上の部分が見える課題＝障害から生じる困難さの一端です。表面的にみられる困難さは一部分であり、水面下の部分には様々な要因があることに留意する必要があります。

指導目標の設定に際しては、水面下の「背景にある要因」を意識しつつ、困難さが軽減されるように考えましょう。



## トピックス

東京都教育委員会が作成した指導資料の活用により、具体的な支援や指導の内容を検討することができます。

### 『『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント』

小学校版 平成 29 年 3 月 / 中学校版 平成 30 年 3 月

本指導資料は、「通常の学級における支援」と「通級による指導における支援」の二部構成で、小学校版と中学校版に分かれており、児童・生徒の発達や障害の状況に応じて活用することができます。添付の DVD ソフトには、「学校における行動」及び「読み書き」に関する実態把握のためのチェックリストや様々なワークシートとともに、指導・支援の例が示されています。例えば、「漢字を書くことにつまずきのある児童」への指導例では、漢字の外形的イメージをもてるように、部位ごとに分解する学習方法なども紹介しています。



小学校版



中学校版

## 3 在籍学級での評価

指導目標に対する児童・生徒の評価は、できるだけ具体的な内容（79 ページ「スモールステップの例」参照）を明確にし、客観的な評価を行う必要があります。「かなりできる」「だいたいできる」等のあいまいな表現は避け、達成が観察できる具体的な頻度や回数等の表現を検討して記録していく必要があります。

なお、評価にあたっては、当該の児童・生徒への支援が適切であったかどうかという視点を含めて評価を行う必要があります。